

ヒメミズスマシ

Gyrinus gestroi Régimbart

コウチュウ目 ミズスマシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

普通種とされるが、水辺環境の改変や外来種の侵入などにより、全国各地で生息地が減少している。県内では2箇所に生息するが、1998年の記録が最後である。

形態

体長4.6~5.2mm。体型は短楕円形で長さは幅の約1.9倍、背面はよく膨隆し、体下面は平坦。上翅の点刻列は11条で普通で、側方でも溝条にならない。オス交尾器中央片末端は広く丸まる。

国内分布

日本固有種。本州、四国、九州。

県内分布

加賀市片野鴨池、志賀町宿女。

生態

成虫は植物の間を巡回し水面に落ちた昆虫を捕食するが、開放水面にはあまり出てこないようである。幼虫も肉食とされる。灯火にも飛来する。県内では、4、5、10月に記録されている。

生息地の条件

水生植物の豊富な池沼や流れの緩やかな小河川。

生存の危機

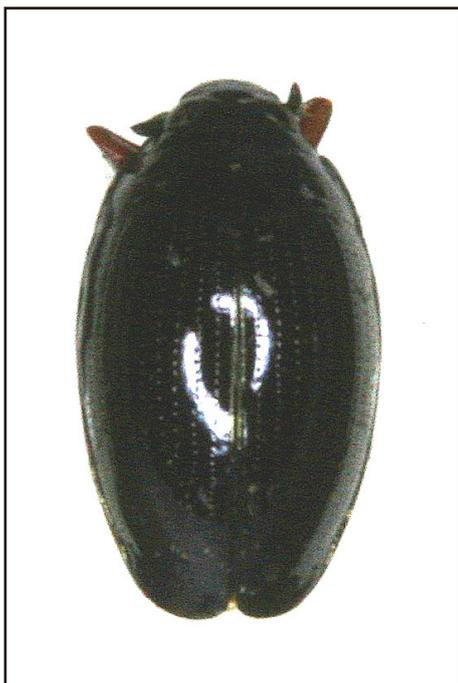
池沼の開発による消失、コンクリートなどによる護岸化、水質汚染（特に油など界面活性剤の流入）、外来種の侵入が脅威となっている。水面上で同様に生活するアメンボ類に比べ、ミズスマシ類の減少傾向は著しい。県内の近年の調査ではまったく確認されていないため、生息地周辺における分布調査を早急に行う必要がある。片野鴨池では、アメリカザリガニ、オオクチバスが侵入しているため、それらの駆除および侵入できない区域を設けるなどの保全策が必要である。(A, B)

参考文献

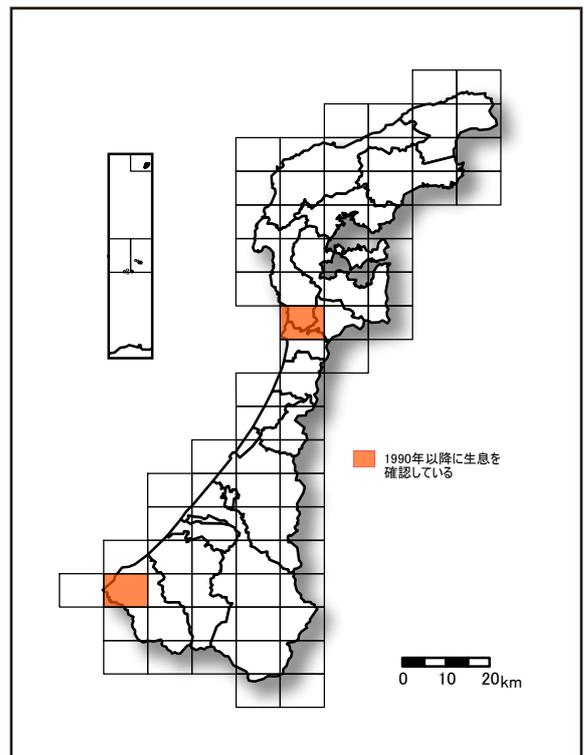
佐藤正孝 1977. 日本産ミズスマシ科概説(1)-(3). 甲虫ニュース, (37) : 1-5, (38) : 1-2, (39) : 1-4.

中根猛彦 1987. 日本の甲虫(81-82), みずすまし科. 昆虫と自然, 22(12) : 36-40, 22(13) : 27-29.

北野 忠・石田和男 2000. 遠州地方で確認された水生鞘翅目. 遠州の自然, (23) : 9-14.



標本提供者: 西原昇吾



県内の分布